

## 第1回熊本県地方大学・地域産業創生交付金外部評価委員会 議事概要

【日 時】令和5年（2023年）11月13日（月）～11月30日（木）

【形 式】書面開催

【委員一覧（敬称略）】

所属・役職	氏 名
国立大学法人 東京大学大学院工学系研究科 教授	黒田 忠広
九州経済産業局 地域経済部 部長	柴谷 昌宏
日本銀行 熊本支店 支店長	田原 謙一郎
一般社団法人 熊本県情報サービス産業協会 代表理事会長	足立 國功

### 【開催概要】

- ・ 地方大学・地域産業創生交付金制度要綱第9 効果の検証にあるとおり、重要業績評価指標（KPI）の達成状況について、毎年度検証することが必要。
- ・ 本県の検証方法として、本県及び熊本大学で当該年度の取組内容や KPI の達成状況について自己評価を実施し、その自己評価を外部評価委員会が評価・検証を行うこととした。

### 【評価結果】

#### <委員会の公開・非公開について>

- ・ 本委員会については、研究内容等が熊本県情報公開条例第7条(3)ア「公にすることにより、当該法人又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害する恐れのあるもの」に該当するものとし、一部非公開とすることを検討している。
- ・ 委員に上記を説明の上、議事の一部非公開について委員全員から了承を得た。

#### (1) 地方大学・地域産業創生交付金に係る自己評価について

- ・ 本県及び熊本大学の自己評価について、委員全員から了承を得た。

#### (2) 交付金事業の進捗について

各事業の進捗状況や改善点等、委員より意見があり、現時点で想定している対応方針を回答した。

##### (以下、評価項目順)

- ・ 3D連携コンソーシアム会員登録件数について、最終年の目標をも大幅に上回る実績であり、熊本県を取り巻く環境を鑑みても、更なる会員数の増加が見込めると考えられるため KPI の上方修正をしてはどうか。

→ 3D連携コンソーシアム会員登録件数についての KPI の修正について検討する。

- ・研究実施体制の強化に関し、「トップ人材」の招聘に際しては、候補者の事情に即して、オンラインを活用したりリモート参加など柔軟受け入れ態勢も用意することで、アポイントメントが獲得しやすくなるのではないか。

→「トップレベル人材の招へい」は、国内外遠方から熊本へ招へいする計画としていたが、調整においては相手先の事情に即して、オンラインを活用した指導等を受ける等、柔軟な受け入れ態勢も検討する。

- ・次年度には学生が入学するので、学生側からの評価の手段、方法等を明示すべきではないか。

→新年度から開始予定のカリキュラム等について、学生側からの評価を得るために既存の授業改善アンケート等を活用し、学生の意見等を取り入れるよう検討する。

- ・今回の事業で新たに開発や利活用されるソフトウェアを成果の一つとして公開すれば、事業全体の評価につながるのではないか。

→本事業の研究開発で活用し有用なソフトウェアについては公開するとともに、今後開発されるソフトウェアについては標準化を目指すなど、特許戦略を鑑み可能な範囲で公開することを想定している。

### **(その他の意見)**

- ・初年度としては、スムーズに進捗してきていると思う。
- ・半導体産業が集積する熊本の特性を生かした、産学官による三次元積層の取組みは世界の半導体技術を牽引していく可能性があり、今後の進展に期待している。
- ・既存の教員のみならず、他大学や産業界、産総研など、アカデミアに閉じない教育の質の向上が短期間で図られており、研究力・教育力の強化につながっている。
- ・日本で初めてとなる学士課程での半導体コース設置などの取組が、スピーディーかつ着実に進められている点を評価したい。地元就職数についても高い目標を掲げており、地域の半導体産業への人材輩出を期待している。
- ・熊本大学の女子枠の設置など、半導体事業にも女性も多く参画するための取組みをされていて素晴らしく思う。これからの事業展開を大いに期待している。
- ・事業の進捗のなかで派生する技術、ノウハウ、そして製品等の評価もでてくると思う。

以上